

国営明石海峡公園のホームページをリニューアルいたしました。

神戸地区の情報だけでなく、既に開園している淡路地区の情報や2つの公園の関係などをまとめていますので、インターネットを見る事が出来る環境をお持ちの方は、是非一度、新しくなったホームページをご覧下さい。

尚、ページの中にはこの「あいな里山公園情報」も創刊号から掲載されており、メールでの配信も行っています。現在、郵送にて配信させていただいておりますが、紙の使用による環境への負担軽減と経費の削減のため、メール配信が可能な方には、出来る限りメー

ルへの変更をお願いしておりますので、皆様のご理解とご協力を願いします。

尚、変更の手続きについては表紙右下にあります。

事が出来る環境をお持ちの方は、是非一度、新しくなったホームページをご覧下さい。

尚、ページの中にはこの「あいな里山公園情報」も創刊号から掲載されており、メールでの配信も行っています。現在、郵送にて配信させていただいている間に、紙の使用による環境への負担軽減と経費の削減のため、メール配信が可能な方には、出来る限りメー

次回の発行は  
5月上旬頃の予定です



<http://www.kokueiakashi.go.jp>

## あいな里山公園における環境教育とは～様々な環境教育教材(その2)～

国営明石海峡公園神戸地区では、稲作をテーマとしたいくつかの環境教育プログラムが実践されている。北区役所まちづくり推進部では地元藍那の方々の指導によってシラベシの棚田で「親子コメづくり道場」を、農都共生ネットこうべでは「田んぼの楽校」を、また、あいな里山ビオパークも不耕起無農薬無化学肥料による餅米づくりを実践している。

環境教育の実践事例でコメづくりを行なっている学校として龍華小学校（大阪府）がある。これは5年生の社会科『わたしたちの食生活と農業』という単元に関連して行なわれているものであるが、ここでは、子どもたちがコメ作りについて興味関心を高めるために、一人が一つのバケツで米づくりをしている。栽培には強い品種である古代種の赤米を使い、また安全な食品について考えるために無農薬無化学肥料による栽培方法をとっている。こうしたねらいのもと、子どもたちは自分のバケツで米を育て、「うまく育つだろうか」「何粒ぐらい米がとれるだろうか」という不安と期待を抱きながら意欲的に活動を行ない、自ら「土づくりはミミズがいる方がよい」と理解したり、田植え後は「バケツの中にカブトエビを入れて草をはやさないようにしよう」などの試行錯誤を試みている。この実践の成果としては、一人ひとりが自分のバケツで米をつくっていく過程で、農薬や化学肥料を使わぬことで食物連鎖の関係を学び、安全な食糧生産について気づく。さらに、堆肥や藁を利用した体験によって便利さばかり追求する現在の生活を見直し、地球規模の健全な環境について考える強い動機づけになっていることがあげられる。山間部に位置する熊野川小学校（

和歌山県）では、「田んぼ水族館」を活用した実践活動が展開されている。この実践は、自然との共生を考える態度を育て、各教科にクロスした環境教育を行ない、五感を用いた原体験で感性を培い、自然や環境の認識を育てるという三つの柱で取り組まれている。近年、メダカ、ハッショウトンボなどの水生生物が生息していた田んぼが休耕田となって陸地化が進み、生物の生息域である水面が縮少し生物種が減少している。この田んぼ水族館では、全校児童が月に一度泥んこになりながら草取りや池づくり、自然遊びなどを行ない、さらに自然観察やコメづくりを実践することで、自然のために働き、かつ自ら楽しむという共生の体験をしている。この「田んぼ水族館」という名称も、水の中で泳ぐメダカや泥煙をたてて動くドジョウを見た児童により命名されたものである。この学校では、田んぼ水族館を環境教育の核として位置づけ、ここから多くの具体的な学校教材を導き出している。

国営明石海峡公園神戸地区は、都市近郊であるにもかかわらず、休耕田となった棚田やため池が数多く存在し、これらを活用することによって「稲作体験」や「自然観察」が実践でき、さらにこうした「自然との触れ合い」を通して、生態系や食物連鎖、食の安全、環境に配慮した持続可能な社会について考えることのできる、感性豊かな子どもたちを育てるための環境教育プログラムを開発することができるだろう。そのプログラムは、「親子コメづくり道場」「田んぼの楽校」「あいな里山ビオパーク」などと連携してつくられることが期待される。

甲南大学環境総合研究所 所長 谷口文章

# あいな 里山公園情報

～国営明石海峡公園神戸地区だより～

## トピックス

- 第8回あいな里山まつり
- 市民活動と里山管理
- ホームページリニューアル
- あいな里山公園における環境教育とは

## 初春のあいさつ

神戸地区最大のイベント「第8回あいな里山まつり」が去る3月3日、盛大に開催されました。不定期の開催にもかかわらず、回数を重ねることに、お越しくださる人数も増えています。

このあいな里山公園情報も、今年度の発行はこれが最後になります。この1年を振り返ると、園内では、棚田ゾーンの造成工事が本格化し、また、アクションリサーチも始まって、変化の1年だったと思います。ですが、開園に向けて、これからは毎年が激動の1年になっていく事と思います。

来年度も、変化を楽しみながら、共に公園づくりに協力いただけますよう、お願い申し上げます。

## 製作・発行

国営明石海峡公園事務所 神戸地区現場事務所  
〒651-1104 神戸市北区山田町藍那字伝庫14  
TEL(078)593-3943 FAX(078)593-3944  
kobe@kokueiakashi.go.jp  
<http://www.kokueiakashi.go.jp>



# 第8回あいな里山まつり 平成19年3月3日(土)

市民参加による里山の管理と造成工事が進み、日に日にその姿を変えていく棚田ゾーン。今まで一番広い会場を設定した今年のあいな里山まつりでしたが、メイン会場から周囲が見渡せ、一体感のある雰囲気は、好評を得ていたようです。

地区に来られた方からは「すごくさっぱりして綺麗になった」と感謝の声が聞けました。園内で最も標高が高い場所まで登る遊歩道も綺麗に整備され、何人の方が気軽に山頂までの往来を楽しんでいました。

今年は暖冬という事もあり、この季節の割には暖かく、少し体を動かせば汗ばむほどのお陽気。舞台に食事に散策に展示、それぞれ思い思いに楽しんでいただけたようですが、まさに今回のテーマの「みんなでつくり、みんなでつくろう、みんなで」でつくりました。

あそぼう」とおりになりました。メイン会場に設置された舞台では、公園事業紹介や参画団体の紹介の他、よさこい踊りやアンクルンの演奏、あいなバンドや太鼓の演奏などもあり、舞台前では、おいしい料理を片手に多くの方が聞きいていました。

同じ会場内には、参画団体のパネル展示もあり、現在の公園中の活動の様子を広く知っていたら良い機会となっていました。その他、観察会や体験会などが、参画団体によって行われ、ツリ



まつりメイン会場のようす

であそぼう」とおりになりました。予想を超える人手

公園事務所では、内装工事を終え、綺麗に仕上がった交流民家を中心には、ひな人形や古民具の展示による雰囲気づくりや、パネル展示による事業説明の他竹細工教室などを直営にて行いました。

予想を超えて、約700回数を重ねる度に身近な自然や里山に対して関心を持ってくださる方の輪は、ゆっくりと、でも着実に広がってきているようです。



公園事務所による竹細工教室のようす



茅葺き交流民家前は「農家のにわ」を再現

## 市民活動と里山管理



実習のようす(H19.2.10撮影)

の市民団体の方に、里山の管理をしていただいていますが、作業には公園の土地利用の理解と、それにそつた作業の技術、そしてなにより、安全管理が不可欠になります。

そこで、必要な知識と一定の技術を身に付けていただきために行われたのが、里山管理技術者認定講習です。この講習では、樹木の特徴やその識別法、樹林の調査方法や、目指している樹林の種類にあわせた手入れの方

法、そして、安全な伐採方法や機械の手入れなどについて、専門の講師の方々をお招きして、講習と実習の両方で実施していただきました。講座は、樹林管理と草地管理に分かれており、講習会の最後に筆記と実技それぞれの効果測定が行われました。

受講者の話では、かなり難易度の高い試験だったそうです。

### まつりにて認定式

効果測定を行った結果、草地管理は準1級

に9名、2級に1名、

樹林管理については準

1級に1名、2級に4名の方を認定させてい

ただきました。

認定者の方は、あいな里山まつりの中で認定式を行い、「あいな耕作くらぶ」の向井善則

### 里山・公園

里山とは、人と自然との関わりの中で、育まれてきた山。人と自然との関わり方は、地域や風習、利用法などによつても多様です。

森や木材の利用方法や手入れの頻度などに

よつて変わる里山管理の方法、広大な神戸地区の里山を管理するには、それぞれの区域の土地利用や景観目標にあつた手入れの仕方が必要になります。

里山・公園  
里山とは、人と自然との関わりの中で、育まれてきた山。人と自然との関わり方は、地域や風習、利用法などによつても多様です。

神戸地区では、多くは「すこさっぱりして綺麗になった」と感謝の声が聞けました。園内で最も標高が高い場所まで登る遊歩道も綺麗に整備され、何人の方が気軽に山頂までの往来を楽しんでいました。



講座のようす(H19.1.20撮影)

今年は暖冬という事もあり、この季節の割には暖かく、少し体を動かせば汗ばむほどの陽気。舞台に食事に散策に展示、それぞれ思

い思いに楽しんでいただけたようですが、まさに今回のテーマの「みんなでつくり、みんなでつくろう、みんなで」でつくりました。

あそぼう」とおりになりました。予想を超える人手



第8回あいな里山まつりにて認定式

に代表して、認定書を受け取っていました。今回認定された方には、その後で交流民家前に移動していただき認定書を授与させていただきました。尚、今回後少しのところで認定されなかつた方に対しては、追加で講習と試験を行い、追加認定を行う予定です。

公園として区域ごとの整備方針を、明確にして行くと共に、参画していただく皆様にもその方針をご理解いただき、かつ、安全に作業をしていただきたいと考えております。

共に、里山公園を作り上げていくために、来年度もよろしくお願